



香川大学サイクリング部



旅と自転車好きが集まって どんどん広がる交友関係

時には1週間ほどテント生活を続けながら、青森や種子島などへ遠征ツーリング。旅と自転車好きが集まるのがサイクリング部です。36名の部員をまとめるのは経済学部3年の越智大樹部長。遠征となれば、男女混合でも1日100km以上走る、本気の活動を続けています。行程にはアップダウンが付きものなので、長距離を走るのは上級生でも「正直、相当しんどい」そうですが、目的地に到着すると、自分の力だけでここまでやれた！と大きな達成感と充実感に満たされます。苦しいけど、やめられない。越智さん曰く、「これがサイクリングの不思議な魅力」なのです。

サイクリング部の練習には、幸町キャンパス以外の離れた学部からも多くの部員が参加しています。人気を集める理由は、経験や運動神経の良し悪しに関係なく始められることにあります。ほとんどの部員が大学生から自転車始めた人ばかり。坂道に強い、平地で速いなど人によって得意な分野があり、ずっと文化系だった人が、本人も知らなかった才能を発揮することも珍しくありません。しかも「自転車は、走った距離がその

まま力になる！」と、越智さんは力を込めます。1日100km走ることが限界だった人が、練習を続けるうちに130km走れるようになる。自分の成長を実感できることは、サイクリングの大きな面白さです。

そして部のもう一つの魅力が、他大学との交流です。四国内の大学とは繋がりが深く、合同でツーリングイベントを開催するほか、自転車抜きでの交流会も盛んに行われています。ネットやSNSで見つけた他大学主催のツーリングに参加することや、ツーリング先にある大学のサイクリング部に遊びに行くこともあり、どんな人の輪が広がります。自転車は、コミュニケーションツールとしても優秀なのです。もちろん部員同士も仲が良いそうですが、その理由がユニーク。「ツーリングで自分の限界をみんなに見られている。今さら格好つけることもないので、自然体でつきあえるんです」と、越智さんは笑います。

誰でも気軽に始められて、学外にまで交友関係ができる。サイクリング部なら、キャンパスライフの幅がぐっと広がります。

